中小企業の経営者・管理職の方へ

AI活用が止まる3つの原因と、失敗しない進め方

データはバラバラ、ツールは定着しない



合同会社REN　　代表社員 原田 敬介

INDEX

01 よくある3つの悩み

02 AI活用が止まる3つの原因

03 よくある遠回り：いまのやり方のまま自動化する

04 自社の現在地を知る：AI活用の段階

05 最初の一歩：業務の棚卸し（記入例）

06 1つの仕事を分けて、どこから手をつけるか決める

07 自分で進めるときに止まりやすい3つの所

08 RENについて・詳細レポートの読み合わせのご案内



01 よくある3つの悩み

01.どこに何があるか分からない

「あの資料どこ？」が毎日起きる。資料が頭・紙・別々のツールに散らばり、探すだけで時間が消えます。

02.ツールを入れても定着しない

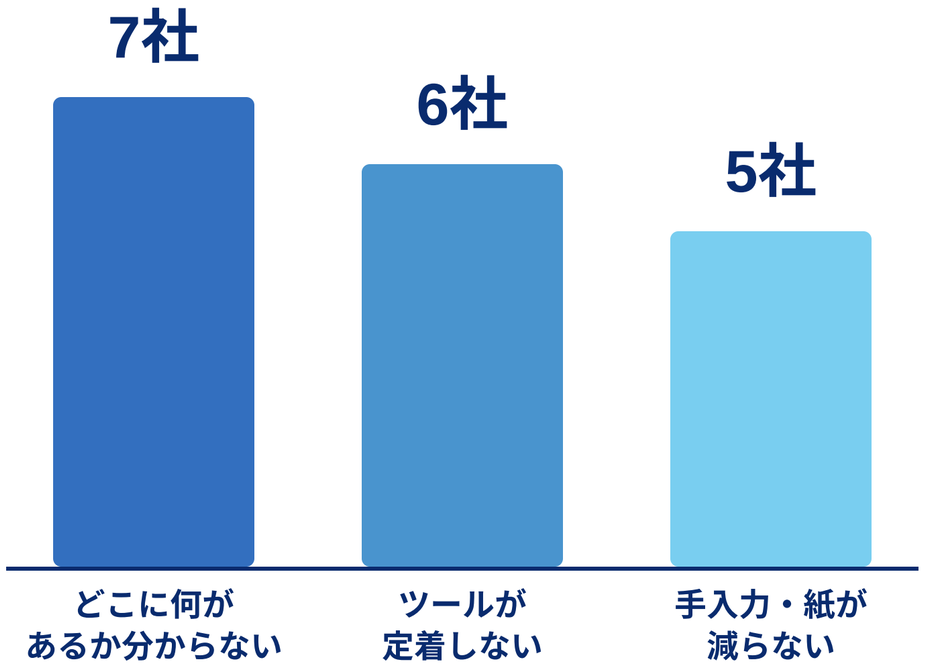
研修もツールも入れたのに、忙しい現場では元のやり方に戻り、使っているのは一部の人だけ。そんな状態が続きます。

03.手入力と紙が減らない

同じ内容を何度も打ち直し、紙や手書きを1件ずつ転記する。忙しいのに、この作業だけは毎日なくなりません。

お話を伺った悩み（10社中）

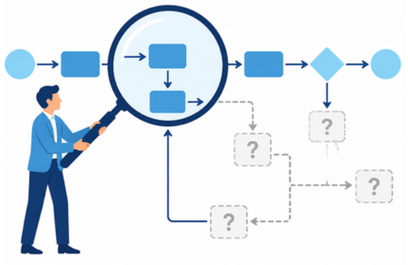
当社が2026年8〜10月にお話を伺った10社の発言を分類（1社が複数の悩みを挙げた場合はそれぞれに数えています）



02 AI活用が止まる3つの原因

悩みの多くは、ツールの良し悪しではなく、その手前にある3つの原因から生まれています。
原因が分かれば、手を打つ順番が決まります。

1



業務が見えていない

誰が何に何時間かけ、どこで判断しているかが見えないまま自動化すると、非効率がそのまま速くなるだけです。

2



情報が散らばっている

AIは読める情報の範囲でしか働けません。資料が頭・紙・別々のツールに分かれていると、返ってくるのは一般論です。

3



続ける仕組みがない

やる気の問題ではありません。仕事の流れの中にAIが組み込まれていないと、忙しい日から元のやり方に戻ります。

03 よくある遠回り：いまのやり方のまま自動化する



精度を上げる前に、前提を変える

手書きの注文書をAIで読み取りたい、という相談はよくあります。ただ読み取りは精度を上げても100%にはならず、人の確認が残ります。先に受け取り方をフォームに変えれば、読み取りも確認もいりません。自動化の前に「この作業はなぜ必要か」を問い直すのが近道です。

前提を見直す　作業をなくす　例外だけ人が対応する

人の確認が減る　費用も減る

04 自社の現在地を知る：AI活用の段階

STEP 0–2

使い始める

使って、型をそろえる

0–2 段階

こんな状態：

- 使う人と使わない人がいる
- 頼み方が人ごとに違う

要注意

STEP 3

流れをつなぐ

多くの会社がここで止まる

3 段階

こんな状態：

- 一部の作業は自動で動く
- 業務の中身は前と同じ

STEP 4–5

作り変える

AI前提で業務を作り直す

4–5 段階

こんな状態：

- 分担と流れを作り直した
- 人が替わっても回る

「3分でわかる、AI活用の現在地診断」で、自社の段階と止まっている原因がその場で分かります。

05 最初の一歩：業務の棚卸し（記入例）

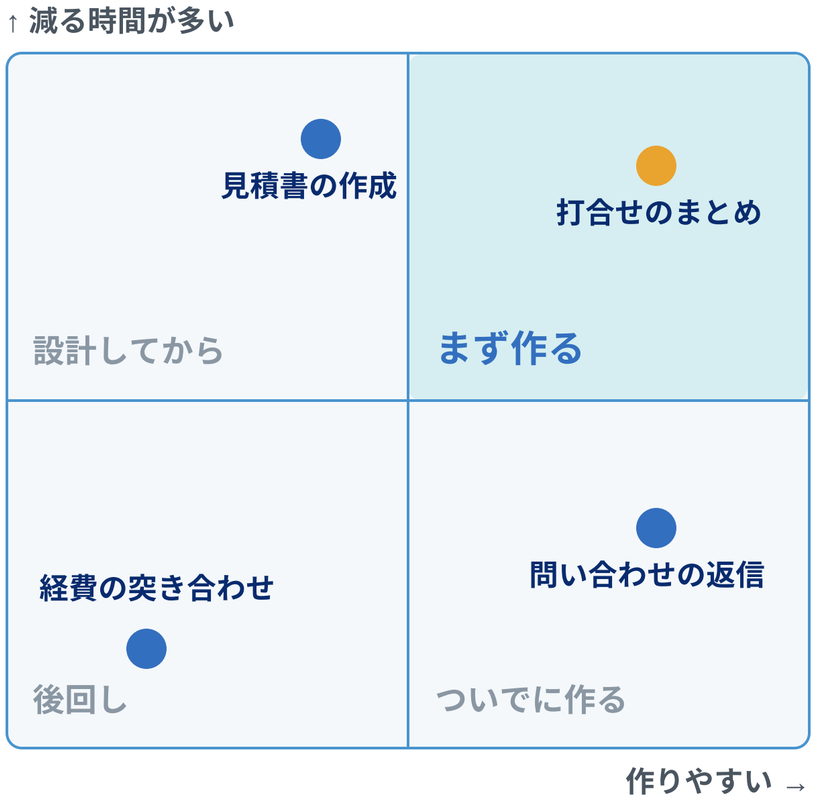
まず、時間を取られている仕事を書き出し、「頻度×1回の時間×人数」で年間の時間を出します。数字にすると、どこから手をつけるべきかが見えてきます。

業務	年間の時間	困っていること	AIに任せられそうか
見積書の作成	約480時間	似た見積を探すのに時間がかかる	任せられる部分が多い
打合せのまとめ	約430時間	議事録とお礼メールを毎回手で書く	任せやすい
問い合わせの返信	約170時間	過去の返信を探して書き直す	下書きは任せられる
経費の突き合わせ	約70時間	例外が多く、担当者しか判断できない	先に決まりを整える

記入例です（すべて架空）。年間の時間＝頻度×1回の時間×人数。現在地診断では、いちばん時間を取られている仕事を1つ書くだけで、分解と改善案をお返しします。

06 1つの仕事を分けて、どこから手をつけるか決める

どこから手をつけるか（記入例）



手順に分けると、任せる所が見える

時間の大きい仕事を1つ選び、手順ごとに分けます。見るのは4つ。①1回にかかる時間 ②例外のパターン ③判断の基準 ④形だけになっている承認。決まりがあって繰り返す手順はAIに任せ、判断が要る所には人が残ります。左の図の右上（効果が大きく、作りやすい）から始めるのが近道です。

07 自分で進めるときに止まりやすい3つの所

01 例外が多い仕事から手をつけてしまう

「いちばん大変な仕事」は、たいてい例外が多い仕事です。いきなりそこから自動化すると、例外のたびに止まります。まずは決まりがはっきりした仕事で1本動かし、例外は人が受け持つ形から始めます。

02 形だけの承認が、そのまま残る

印刷して確認、上長の押印、念のための二重チェック。理由を誰も説明できない承認が残ったままだと、AIで速くした分がそこで止まります。残す承認と、なくす承認を先に決めます。

03 判断の基準が、担当者の頭の中にしかない

「この場合はこうする」が書かれていないと、AIにも新しい担当者にも任せられません。担当者に話してもらい、判断の基準を言葉にして残すことが、自動化の前にやるべき一歩です。

この3つは、社内では気づきにくく、外から業務を見ると見つけやすい所です。

08 RENについて

つないでから、つくる。

AIを足すのではなく、AIがある前提で業務を根本から見直し、現場に定着するまで伴走します。

会社名	合同会社REN
設立	2025年10月
代表者	代表社員 原田 敬介
拠点	愛媛（全国どこでもオンラインで対応）
事業内容	業務構造診断・AI戦略策定／AI実装・定着支援／組織育成・研修
メール	info@ren-llc.jp
URL	https://ren-llc.jp/



詳細レポートの読み合わせ

診断結果をもとに、次の一手を一緒に決めます

30分・オンライン・無料

QRコードからお申し込みください

https://ren-llc.jp/contact/

フォームに「読み合わせ希望」とご記入ください。ご予約は月ごとの枠数に限りがあります。

合同会社REN